

ちょうぞういたび
56. 彫像板碑

■ 指定日

平成2年12月12日

■ 種別

有形文化財 建造物

■ 年代

南北朝時代

■ 所在地

朝来市和田山町土田(西土田)

■ 所有者

土田・西土田区



■ 内容

土田観音堂に隣接して建立。今は廃寺となっている東見寺に関連のある仏と考えられている。

先端を屋根型に刻み、板碑としての形式の中に舟光背を彫りくぼめて、その中に定印を結ぶ阿弥陀如来像を浮き彫りにしている。

南北朝時代「応安七年(1374)」の紀年銘があり、東見廃寺往時の隆盛を物語る資料として、また、紀年銘のある阿弥陀如来像石仏として但馬最古の重要なものである。

覆屋で保護されてきたため、600年以上を経過したことが信じられないほど良好な状態である。地元では大日如来として信仰されている。